

## 数式処理について4（「数式処理について3」の補稿）

自律とオンデマンド解析・推論。もうすこし整理してみます。全てコマンドで表現できること。データオブジェクトのネットワーク上のコマンド。コマンドにはセンサーとアクションと管理があること。

### ◆ ((センサー))

2つの円を把握する。-----→黑板へ。-----+意味ネットワークへ。

円の中心を把握する。-----→黑板へ。-----+

円の半径を把握する。-----→黑板へ。-----+

円の中心と原点のつくる図形を解析----→直角三角形----→黑板へ。-----+

### ◆ ((アクション))

(推論)

2つの式が解をもつ。-----→2つの式の図が重なる。

重なる—2つの円が重なる--→2つの円の中心点間の距離が半径の和より小さい。

(立式)

半径の和の式-----→黑板へ。-----+式表記へ。

円の中心間の距離-----→黑板へ。-----+

式の合成-----→黑板へ。-----+

### ◆ ((管理))

(連想)

2次式---→円---→円関係の解析をし、意味ネットワークを作る。

推論の実施（含意関係認識）

立式の実施

(補助)

黑板データを意味ネットワークにする。

黑板データを式に表記する。

推論結果を管理していく。大きな黑板に記す。

これらは、コマンドで表現できます。

- prolog/LISP コマンド
- プロダクション
- 重み付投票・ベイシアンネットワーク（連想）

おわり